

共同礼拝

2024年6月23日(日) 午前10時30分
午後4時

司式 牧師 高橋和人 姜 徑米(夕)
奏楽 四宮真奈美

前 奏
招 詞 詩 編 100編1～2節
讃 詠 546

主の祈り

聖 書

出エジプト記 3章14～16節 (旧97)
マタイによる福音書 22章23～33節
(新43)

祈 禱

使徒信条

讃 美 歌 30

説 教 「復活の時には」 牧師 高橋和人

祈 禱

讃 美 歌 161

献 金

頌 栄 541

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。
礼拝は前の方から静かに着席しましょう。

6月の祈り

教会が教会の頭であるキリストのもとに一つにまとめられるように。

キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、信じて、約束された聖霊で証印を押されたことを表すことができるように。

礼拝がまことに主をあがめるものとなるように。

信仰の継承がなされ、教会学校、幼稚園等教会に集う子どもたちに信仰の導きと祝福があるように。

震災の地の教会と人々を覚えて、戦争と紛争の地に平和がもたらされるように。

今日の祈り

礼拝が聖霊に導かれ、その力を受け、大胆に御言葉が語られるように。

教会が一つになり、主を頭として仰ぎ、頭を挙げて生きることができるよう。

同じ信仰によって南支区に立てられた諸教会が共に主の体として、祈り支え合うために力付けられるように。

「復活の時には」高橋和人

マタイによる福音書22章23～33節

主の敵対者が加わる。サドカイ派が登場する。祭司階級の貴族であった。旧約聖書の5書を重視し、祭儀に精通した知識人であった。彼らは、復活信じていない。ファリサイ派は律法の実践を重んじた。

サドカイ派は神を超越した存在として、割り切った考え、創世記から申命記までの聖書に書いてあることに限定して考え、日々のことは合理的に考えた。世の中を上手に生き抜く知恵を重視して

「世俗的」であった。

彼らの主に対する質問は、7人兄弟の長男と結婚した女が夫の死により弟の妻となりそれが最後の弟

まで続いてその女も死んだ。その女は誰の妻になるかという。これは申命記25:5,6の適用による。

彼らの質問は議論のためであった。7人の兄弟とその夫婦の現実には触れない。神との関わりも語られない。復活の不合理なことを示すだけだ。

主イエスは彼らが「聖書も神の力も知らない」といわれる。彼らが聖書も神の力も生きた現実のもので、人を生かすことを分かっているからだ。何よりも神は愛する者に寄り添われる。

主は「復活の時には、めとることも嫁ぐこともない、天使のようになる」といわれる。われらの生活が復活後も持ち越されていくわけではない。地上の幸不幸を引きずるのではない。また、天使になるわけではない。天使は神に直接結ばれる存在。

人は、主イエスに結ばれて、神の子とされ、神に結ばれる。それは、神との絆によって存在することになる。神との絆は愛であり、愛はその人の人格や人生が包まれる。

さらに、主は復活について出エジプト13:16を引用し、「神は死んだ者の神ではなく、生きた者の神なのだ」といわれる。これは主の宣言だ。

アブラハムは最初の信仰者、神の約束を信じて、行先を知らずして歩み出した。創世記は三代の赤裸々な生きた生涯を記している。

「生きた者の神」それこそ神の本質。その人とその人生すべてを失われないものとしてくださる。今もアブラハム、イサク、ヤコブの神として、その命を失われないものとして、御自分の許に置かれ、われらにもそうしてくださる。

世俗の知恵に生きたヘロデ派もサドカイ派も失われて行った。われらは復活の信仰によって、失われない神の愛の御手に繋がれている。